



子どもたちを育てたピアノ

「森のピアノ」としてたくさんの人々を楽しませてくれているピアノは、かつては小学校で子どもたちを育てていたピアノでした。旧口神ノ川小学校で使われなくなったピアノを引き取り、誰でも自由に弾けるように、四万十会館や屋外にピアノを置いてみてはどうかと考えていたそうです。企画者に話を聞くと、当時、こうしたストリートピアノは高知県ではまだあまり馴染みがなかったそうです。ならば四万十町でやってみようという想いで、2020年の秋、「森のピアノ」が誕生しました。その後、NHKの番組でも紹介されるなど、その人気は全国へと広がっています。



森のピアノの様子や
最新情報を発信中！



「森のピアノ」Instagram @mori_no_piano



四万十町公式YouTube
で映像公開中！



名曲「Let It Be」を弾く高校生や、ギターの弾き語りとのコラボなど、「森のピアノ」に訪れた多くの皆さんの様子を収録していますのでぜひご覧ください！

右のQRコードから
ご覧いただけます。



特別なステージも開催

写真／2020年10月に開催された「月夜の森の音楽会」

「森のピアノ」が設置されている広場では、バイオリンやチェロなどとコラボした特別なステージが開かれることも。今後は、ピアノを弾きに來た人も聞きに來た人も、お互いが同じ時間を楽しめる新しい企画も実施していくそうです。今まであったものを活かしつつ、ここにいる人たちが幸せになれる、そんな新しい文化が生まれています。



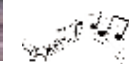
森のピアノ～春～



3月19日から5月29日（日）までの晴れた休日に、四万十緑林公園の中に設置されている「森のピアノ」。誰でも自由に弾ける、自然の中にあるストリートピアノです。町外からも多くの人が訪れ、公園には穏やかな音色とともに、ここでしか味わうことのできない、ゆっくりとした時間が流れています。今月は、その「森のピアノ」の背景に迫ります。



地元の子どもたちにも、 企画することの楽しさを



「自分たちで何かを作ったり企画したりする楽しさを、地元の子どもたちにも味わってほしい」—。そんな企画者の思いから、昨年の秋シーズンには、窪川高校の生徒が協力して外装の絵を制作しました。ピアノの今後の外装にも注目です。